

学習指導案（国語科・古典探究）

実習生  
指導教員：〇〇

- 1 対象
- 2 日時 2025年6月16日 1時間目
- 3 場所
- 4 単元名 「沙石集」『高等学校 古典探究』（数研出版）
- 5 単元について

(1) 単元の目標

- ・これまでに学んできた古文の知識を総合的に活用し、読み解く。
- ・敬語、助動詞など文法的に注意する点を確認する。
- ・歌合や役職の名前など、古文読解に必要な知識を理解する。
- ・忠見の和歌への思いを踏まえ、心情の変化をまとめる。

(2) 教材観

歌合を舞台とした説話である。敬語、助動詞など文法事項は丁寧に扱う必要があるが、和歌にうたわれる心情は親しみやすく、比較的内容を把握しやすい教材ではないだろうか。登場人物の心情に思いをよせ、当時の文化への理解を深めながら読解していきたい。

(3) 生徒観

全員が授業に真面目に取り組んでおり、話し合う場面と聞く場面のメリハリもしっかりある素晴らしいクラスである。古文の基礎的な読解をする能力は十分にあるが、最近習ったばかりの敬語表現や難しい助動詞の識別などについては、まだ自信がない様子も見られる。本単元を通して古文読解における基礎的な知識を確認しつつ、発展的な知識の導入としていきたい。また、知識を確認する際はペアワークやグループワークを用いて生徒ひとりひとりの知識のアウトプットを行い、知識の定着と深い理解を目指す。

(4) 指導観

敬語や係り結びの逆接的用法など、二年生の初めにしてはやや発展的な文法事項も見られるため、生徒の理解度に注意しながら授業を進める。特に敬語は、二年生で新たに習ったばかりの文法事項であるため、疑問が残らないよう時間をかけて取り扱いたい。また、文法事項だけでなく登場人物の心情や和歌の修辞法にも注目し、物語の面白みや和歌の繊細な表現についても伝えられるように努めたい。意見や感想を共有する機会もなるべく多く設け、生徒が楽しみながら知識を深められる授業を目指す。

6 単元の評価規準

A 知識及び技能	思考力・判断力・表現力等			E 学びに向かう人間性
	B 聞くこと・話すこと	C 書くこと	D 読むこと	
① 文法や語句の意味を正しく理解している。 ② 当時の文化や古典常識に親しみ、理解を深めている。	・自分の考えを相手にわかりやすく伝えようとしている。	・本文に対する意見や感想を、相手に伝わるように表現しようとしている。	・作中のものの見方や考え方を踏まえ、本文を適切に読解しようとしている。	・学習活動に積極的に参加しようとしている。

7 単元の計画（総時間 4時間）

時	学習活動	評価規準
1	文学史的事項を確認した後、「恋すてふ〜」の和歌まで本文の内容を読解する。	【A①】文法や語句の意味を正しく理解している。（観察・考査） 【E】学習活動に積極的に参加しようとしている。（記述の確認・観察）
2	「さて、すでに御前にて〜天气を伺ひけるに、」まで、文法事項の確認しながら内容を読解する。	【A①】文法や語句の意味を正しく理解している。（観察・考査） 【E】学習活動に積極的に参加しようとしている。（記述の確認・観察）
3	「帝、忠見が歌をば〜殿の『ものや思ふと人の問ふまで』」まで、文法事項の確認をしながら内容を読解する。	【A①】文法や語句の意味を正しく理解している。（観察・考査） 【E】学習活動に積極的に参加しようとしている。（記述の確認・観察）
4 本時	「あはと思ひて〜『拾遺』に入りて待るにや。」まで、文法事項を確認しながら内容を読解する。その後、「恋すてふ〜」と「つつめども〜」の優劣の判定をするワークをする。	【D】作中のものの見方や考え方を踏まえ、本文を適切に読解しようとしている。（記述の確認・観察） 【E】学習活動に積極的に参加しようとしている。（記述の確認・観察）

8 本事業 (第4時)

(1) 本時の目標

- ・これまで習った古典を読むための知識をもとに、本文の内容を理解する。
- ・忠見の歌にかける情熱を自ら進んで評価し、積極的に話し合いに参加する。
- ・様々な意見に触れて、自身の考えも深める。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入 6分	◎古文単語テスト (5分)  ◎前回までの内容を軽く復習する。(1分)		
展開 40分	◎本文「あはと思ひて～」から最後まで読解する。(15分)  ◎2つの和歌のどちらの方が優れている(又は好きか)考えてもらうワークをする。 ・それぞれの歌の意味をスライドで確認する。(4分)  ・どちらの方が好きか理由も併せて考えてもらい、ワークシートに書き込む。(5分)  ・四人一組程度の班になってもらい、意見交流を行う。(10分)	・最後の二文が编者からのコメントのような形式になっていることを押さえる。 ・敬語「侍る」に重点を置いて解説する。  ・ワークシートを配布する。 ・班の形態は予めスライドに提示する。 ・授業者の好みは押し付けないようあくまで公平に扱う。  ・行き詰っている子は、歌の意味を一緒におさらいするなどして手助けする。  ・ひとり1,2分程度で話してもらおう。	・文法や語句の意味を正しく理解している。(A①) ・作中のものの見方や考え方を踏まえ、本文を適切に読解しようとしている。(D)  ・学習活動に積極的に参加しようとしている。(E) ・作中のものの見方や考え方を踏まえ、本文を適切に読解しようとしている。(D)  ・本文に対する意見や感想を、相手に伝わるように表現しようとしている。(C)  ・自分の考えを相手にわかりやすく伝えようとしている。(B)

	・全体で忠見派、兼盛派それぞれに挙手してもらい、それぞれ何人かに理由を発表してもらおう。(8分)	・理由の発表は、挙手が少なければ他推や、こちらから当てさせてもらう。 ・個人の自由な感性を尊重する。	
まとめ 2分	◎意見へのフィードバックや、単元全体のまとめを行う。(2分)	・時間があればスライド、なければ口頭で行う。	

9 観点別評価の判断基準

判断基準 評価基準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 指導の手立て
A 知識及び技能	読解に必要な文法事項や語句を正しく理解し、当時の文化への理解を深めている。	読解に必要な文法事項や語句をおおむね理解している。	他の生徒と意見交換する中で、文語のきまりや語句の意味に気付かせる。
B 話すこと 聞くこと	自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために工夫しつつ、周りの意見も聞いて自身の考えを深めている。	自分の考えを相手に伝えることができる。	机間指導を行い、個別に発問をして考えを深めさせる。
C 書くこと	自分の意見や感想を、相手に伝わるように工夫しながら表現しようとしている。	自分の意見や感想を文章で表現することが出来る。	他の生徒と意見交換する中で、様々な意見に触れることで考えや表現を深めさせる。
D 読むこと	本文中の描写や表現を根拠として、登場人物の心情や語り手の意図を理解している。	登場人物の心情や語り手の意図を理解している。	他の生徒と意見交換する中で、根拠に気付かせる。 机間指導を行い、個別に発問をして考えを深めさせる。

◎和歌の優劣を判定してみよう！

《忠見》恋すてふ わが名はまだき 立ちにけり 人知れずこそ 思いそめしか

(恋をしているという私の噂は、早くも立ってしまったよ。人知れず思い始めたのに)

《兼盛》つつめども 色に出でにけり わが恋は ものやおもふと 人の問ふまで

(包み隠すけれど、表情に出してしまったよ。私の恋は。恋の物思いをしているのですかと、人が尋ねるほどに。)

- ① 忠見と兼盛、どちらの和歌の方が優れている？ (又は好き?) ( ) ( )
- ② その和歌を選んだ理由は？自由に書いてみよう！

《理由》

◎おまけ

もし 授業の感想や、伝えたいことなどあればなんでも書いてください！

短い間でしたが、ありがとうございました！